

# 京都大学2005年度「教育方法論」試験問題

試験時間60分

以下の問いに答えなさい。（なお、別紙の解答用紙には各問で選択した番号等を必ず記載すること）

問1 以下の用語・人物等から4つ選択し、それぞれ説明しなさい。（100～200字程度）

- |            |               |
|------------|---------------|
| ① 習熟度別学級編制 | ② 仮説実験授業      |
| ③ ヘルバルト    | ④ 形成的評価       |
| ⑤ 教授＝学習過程  | ⑥ プログラム学習     |
| ⑦ バズ学習     | ⑧ モニトリアル・システム |
| ⑨ 相対評価     | ⑩ 教材          |

問2 **A群**の各事項に関係の深い人物等について、**B群**の中から選びなさい。

## A群

- (1) 「生徒が計画し、現実の生活そのものの中で達成される、全心を打ち込んだの目的ある活動」
- (2) 「すべての人々にあらゆることを教授する普遍的な技術を提示する大教授学」
- (3) 「教育とは、経験を絶え間なく再組織ないし改造することである」
- (4) 「教育内容の厳選は、[生きる力]を育成するという基本的な考え方に立って行い、厳選した教育内容、すなわち、基礎・基本については、一人一人が確実に身に付けるようにしなければならない」
- (5) 「どの教科でも、知的性格をそのままに保って、発達のどの段階のどの子どもにも、効果的に教えることができる」

## B群

- |           |            |            |             |
|-----------|------------|------------|-------------|
| (a) コメニウス | (b) ブルーム   | (c) 文部省    | (d) キルパトリック |
| (e) ブルーナー | (f) 木下竹次   | (g) ペスタロッチ | (h) 遠山啓     |
| (i) デューイ  | (j) パーカースト |            |             |

問3 次の記事を読み、下記の問いに答えなさい。（設問上、一部省略、修正した。）

経済協力開発機構 (OECD) の学習到達度調査 (PISA) で「世界一」の評価を受けるフィンランドの首都、ヘルシンキ市中心部に近い中学校。ある授業では、先生が練習問題の答えを説明中だというのに、教室後方の女子が手招きすると、男子が席を立てて近寄った。先生は何も言わない。このクラスではわからないところがあったら、まずは生徒同士が教えることになっている。「一人ひとりが何ができて何ができないのかを自覚することが大事。出来ない子を教えれば、より理解を深められる」と先生。同国では標準的な考え方だ。学校や生徒をテストでランク付けする仕組みがない同国では、高校進学に影響する中学3年の成績を除き、成績をつけるための明確な基準もない。数学が得意だというAくんは「競争ではなく、自分がやりたくて、できるようになりたいから勉強している。数学が苦手な友達を助けてあげるのはいいこと」と話す。（出所：<http://www.asahi.com/edu/news/TKY200412190095.html>）

上述の授業や子どもたちの学びの様子は日本における授業や学びのあり方等にどのような課題を投げかけているか、あなたの考えを2点にまとめて述べなさい。（400～800字程度）

(以上)